

2019年4月22日

現在高校1年の篠田海遥君が2018年4月より取り組んできた研究「埼玉県川口市に残る1923（大正12）年関東地震に関する記録」の成果をまとめた論文が、学術誌『歴史地震』第34号に受理されました。掲載された雑誌は、7月に発行予定です。

未曾有の関東大震災をもたらした関東地震の発生から間もなく96年が経ちますが、1年間をかけて調べ尽くした結果、川口市内には下記のように、多くの記録が残っていました。

- ①上青木氷川神社（川口市青木5-18）に建つ石碑「御大典記念碑」に記されている震災と再建
- ②震災の直後（1923年10月）に旧鳩ヶ谷町の被害状況が克明に書かれた手紙（葉書）
- ③震災からの復興を機におこなわれた耕地整理の記録「耕地整理碑」（2基）
- ④資料『北足立郡大正震災誌』が物語る旧川口町（現在のJR川口駅周辺）の被害
- ⑤資料『芝村誌』に記された旧芝村（現在の川口市芝地域）の被害と教訓

他



上青木氷川神社に建つ「御大典記念碑」の読み取り調査（2018年5月）

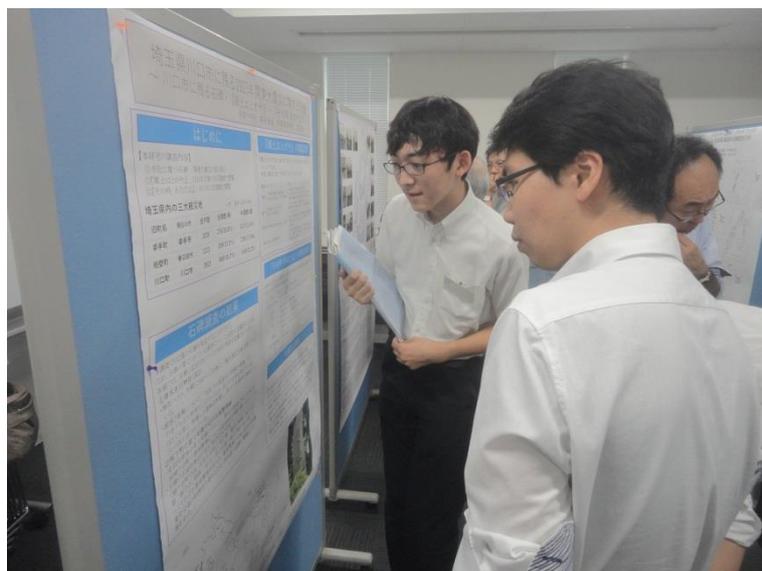
（赤色の傍線部「大正十二年九月一日未曾有の大震有り」から碑文が始まっている）



川口市郷土資料館での「震災直後に書かれた葉書」(現物)の閲覧調査(2019年4月)

本研究により、川口市域での関東地震による被害の詳細を把握できました。それだけではなく、本震に続いて多数発生した規模の大きな余震のことや、震災からの復興の過程に関することなど、先人が我々後世に残して下さった教訓の秘められたメッセージを受け取ることができました。

2019年度は、川口市や一昨年度に調査をした幸手市を対象地域として、地震への備え等に関する意識調査のアンケートを実施する計画です。成果は、9月21日(土)~23日(月)に徳島大学で開催される学会(第36回歴史地震研究会)で発表することを目指しています(右の写真は、2018年9月に大分市で開催された研究会における「川口市に残る関東地震の記録(途中経過)」のポスター発表の様子です)。



地震・津波のことに興味のある生徒は、ぜひ一緒に研究に取り組みましょう。

顧問 荒井 賢一(理科教諭)